

ヒメネズミ

Apodemus argenteus

ネズミ科



ヒメネズミ

名前の由来

ヒメ(姫)は一般に小さいものに付けられ、小さいネズミの意味。ネズミは暗い所に居るので「根棲み」、あるいは「穴棲み」から、「寝盗」からなど。漢字名：姫鼠

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

形態的特徴

尾が頭胴長より長い。体の上面が赤っぽい。

頭胴長（鼻先から尻尾の付け根まで）72～100mm、尾長75～110mm、北海道のものは後足長（後足の指先から踵まで）20mm未満。背中は栗色で腹は白色。

類似種：エゾアカネズミ、カラフトアカネズミ。

エゾアカネズミは太めでより大きく、後足長が24mm以上で頭胴長と尾長は同じか尾が短い。 **右前足** **右後足**

カラフトアカネズミはやや大きく、後足長21～23mm。



ヒメネズミ。尾が長い

生息環境・分布

広葉樹林、針広混交林、針葉樹林、ハイマツ林など、低地から高地まで広く分布し、草原にはいない。

分布：国外分布は、なし。日本固有種。国内では、全国に

分布。北海道内では、北海道本島、利尻、礼文に分布。十勝地方では、低地～高地の樹林で見られる。

食性・他生物との関わり

種子、昆虫を食べる。アカネズミより昆虫への依存が強い。イタチ類、タカ・フクロウ類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

北海道では年1回繁殖。一度に2～12子(平均6.2)を春～秋に地下巣で産む。寿命は野外で3年、飼育下で3～5年。

興味深い話

- 日本固有種である。
- 夜行性で地上および樹上で活動する。採餌時間の7割以上を樹上で活動する場合もあるという。
- 前肢と口を使って巣穴を掘り営巣する。巣穴の直径は2～2.5cmほど。
- 樹上営巣することもあり、野鳥用巣箱に落ち葉を敷き詰めて利用することもある。

■十勝地方のアイヌ語ではネズミ類一般を「エルムン」と呼ぶ。



野鳥用巣箱内のヒメネズミ。巣立ち直前の子

配慮事項

種子のなる樹林が必要。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出現期	[Green bar indicating presence from Jan to Dec]												
繁殖期					[Red bar indicating reproduction from May to Oct]								

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新聞社 1997

「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「フィールドガイド 足跡図鑑」子安和弘 日経サイエンス社 1993
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004